

国立市の観光に関する提言書



平成26年12月

目次

| | |
|---|-----------|
| I. 国立市の現状と課題 | 2 |
| 1. 国立市の概要 | 2 |
| 2. 国立市の住みやすさ | 3 |
| (1) 今後の居住意向 | 3 |
| (2) 住み続けたい理由 | 3 |
| (3) 国立市の魅力 | 3 |
| (4) SUUMO 街の総合ランキング(関東) | 4 |
| 3. 国立市の観光資源 | 5 |
| (1) イベント | 5 |
| (2) 街並み・イメージの良いまち | 6 |
| (3) 豊かな自然 | 7 |
| (4) 文化 | 8 |
| 4. 国立市の観光における課題 | 9 |
| | |
| II. 国立市の目指す観光について | 10 |
| 1. テーマ | 10 |
| 2. 国立市の観光の将来像 | 11 |
| (1) 学び賢くなる場をつくる(来訪者とともに学び賢くなる) | 11 |
| (2) 住民みんなでおもてなし(来訪者とともに暮らしを楽しむ) | 12 |
| (3) もっと住みたくなる街をつくる(来訪者とともに多様なライフスタイル をつくる) | 13 |
| 3. 観光の体系図 | 14 |
| 4. 役割分担 | 17 |
| 5. まとめ | 18 |
| 6. おわりに | 19 |
| | |
| 参考資料 | 20 |
| 1. 検討経過 | 20 |
| 2. 観光懇談会委員名簿 | 21 |

はじめに

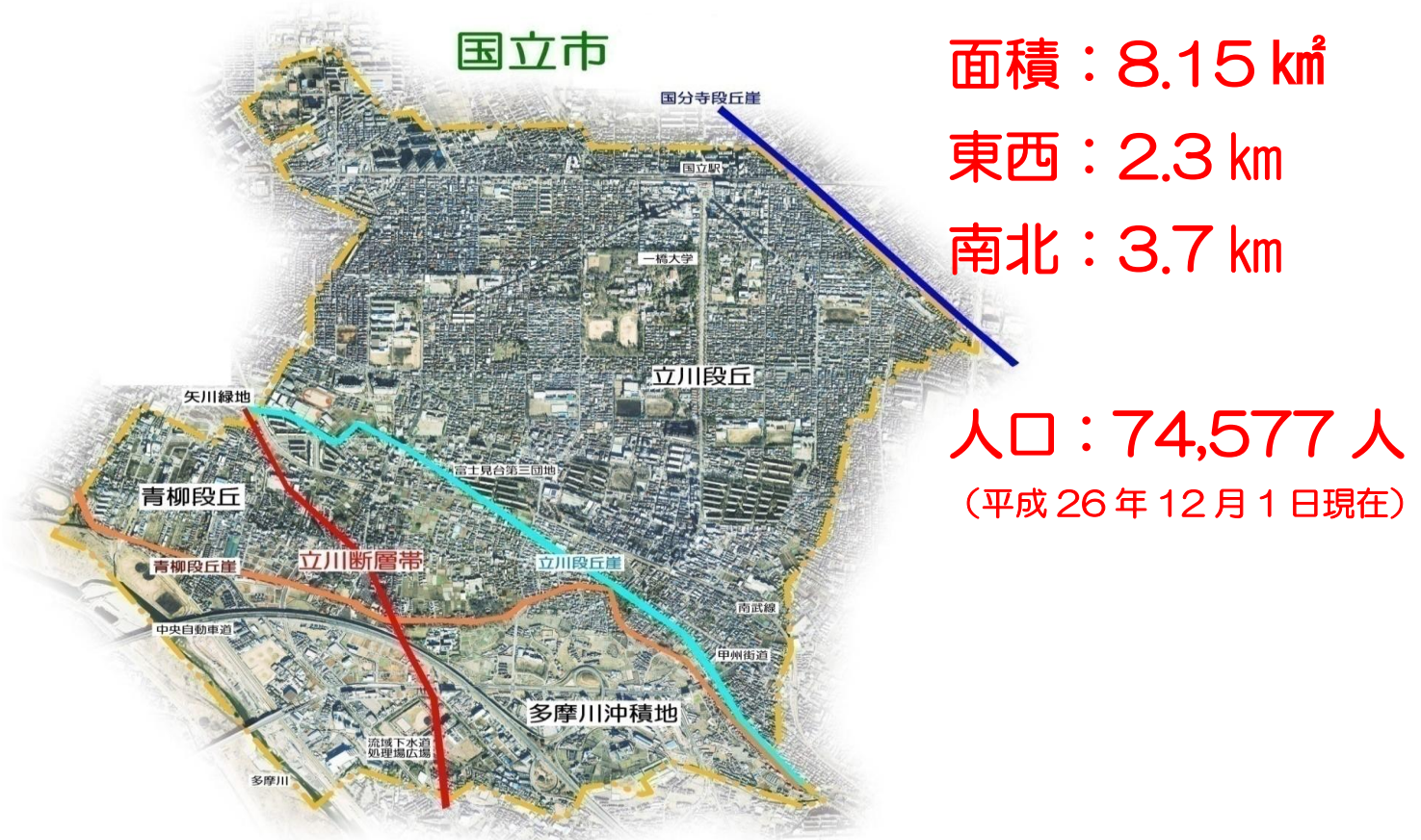
国はいま、地方創生の柱のひとつとして観光に力をいれています。人口急減・超高齢化という大きな課題に対し、各地域がそれぞれの特徴を活かした自律的で持続的な社会を創生することを目指してこれから様々な施策が打たれます。一方で平成25年(2013年)に外国人観光客が1千万人の大台を超え、平成32年(2020年)の東京オリンピック・パラリンピック開催も決まり、さらなる2千万人の外国人観光客誘致をめざし、観光立国実現に向けたアクション・プログラム2014を発表しました。そういった状況の中、地域においても、産業・自然・歴史・文化など独自の地域資源を活用して、地場の魅力を輸出商品として観光産業の振興を図り、心の豊かさを求める人々の多様なニーズに応えることにより、公共投資だけに頼らない地域活性化が求められています。自治体が観光振興事業を行うことは、経済が低迷する中で、地域振興を行う原動力として地域に財貨を呼び込み、還流する仕組みを再構築することで地域住民のサービス向上を目指すものです。

国立市では、平成25年(2013年)4月から組織改正により産業振興課内に商工観光係が創設され、地域の魅力など情報発信や他市からの来訪者を呼び込むための新たな観光施策を行う組織となりました。国立市の将来につながる観光施策を展開するには、まず地域ニーズを把握する必要があると考えました。市民や商店主、地域の団体などがどのような観光を望んでいるのか、未来の国立市を観光によってどのような“まち”にしたいのかなどの思いや考えを行政が市民とともに共有し、市民の意見を反映した観光施策として進めるため、平成26年(2014年)4月に、一般公募の市民、国立市観光まちづくり協会をはじめ関係団体の方や、一橋大学の学生をメンバーに、観光懇談会がスタートしました。

観光懇談会では、「国立市の観光とは何か?」、「国立市の観光の目標は?」、「目標を達成するためにはどのような施策を進めていくのか」、「最終的にこの観光施策を誰が進めていくのか」について多角的に意見交換し、集約をし、提言書としてまとめたので提出いたします。

I. 国立市の現状と課題

1. 国立市の概要



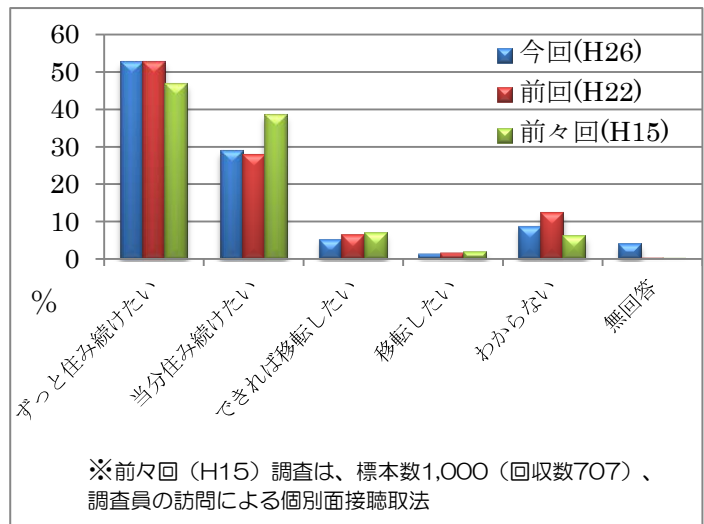
国立市は、東西 2.3 km、南北 3.7 km の長方形で総面積 8.15 km² のコンパクトなまちです。全国でも 4 番目に面積の小さい市であり、東京都の中では狛江市に次いで 2 番目に小さい市です。この小さなまちに、約 74,000 人の人口を有し、人口密度としては全国の市で 18 番目に高くなっています。これは、住民にとってまち全体を把握しやすく、自治という理念を実現するのに適した規模です。また、市がコンパクトということから、顔の見える関係が構築しやすく、それが発展し、文教地区指定運動や公民館設置に見られる、市民によるまちづくりへとつながり、住民の意識が高くなっているのではないかと思います。

2. 国立市の住みやすさ

(1) 今後の居住意向

国立市への今後の居住意向をみると、「ずっと住みたい」は52.4%、「当分住みたい」は28.8%であり、この両者を合わせると81.2%と多数が“住みたい”としています。

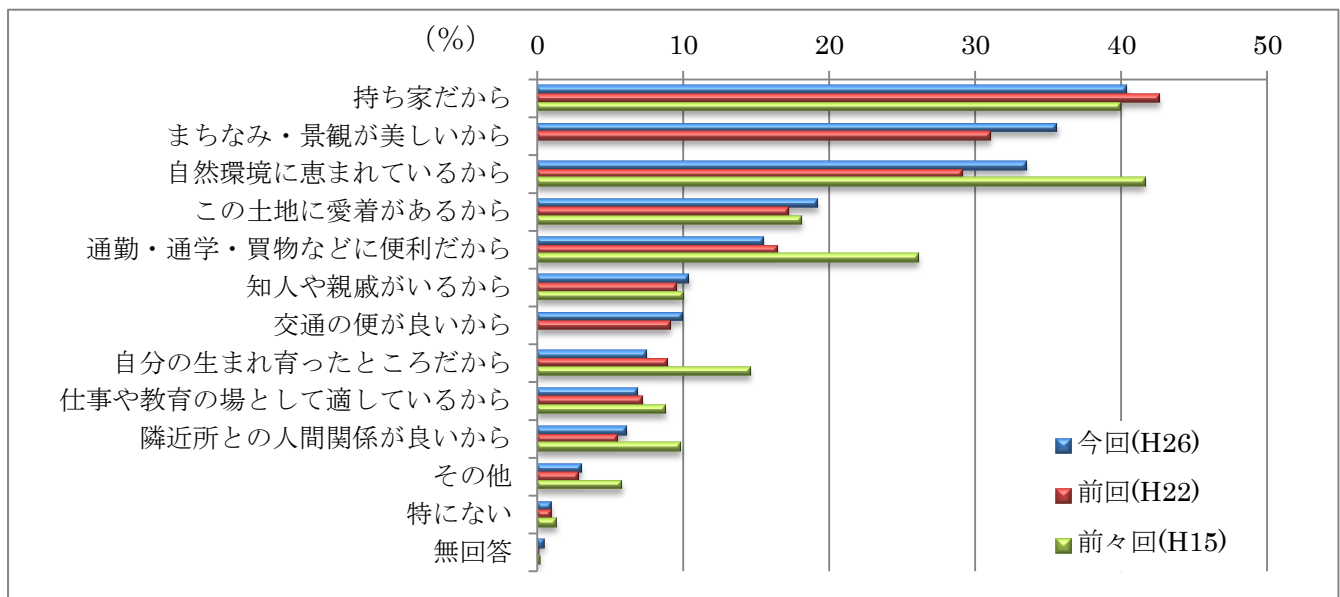
前回の調査をみても、“住みたい”としている人が多数を占めています。



(2) 住みたい理由

「ずっと住みたい」、「当分住みたい」と回答した人の住みたい理由をみると、「持ち家だから」(40.4%)、「まちなみ・景観が美しいから」(35.6%)、「自然環境に恵まれているから」(33.5%)が上位にあげられています。

国立の豊かな景観と自然が住みたいまちとして選ばれていることが伺えます。

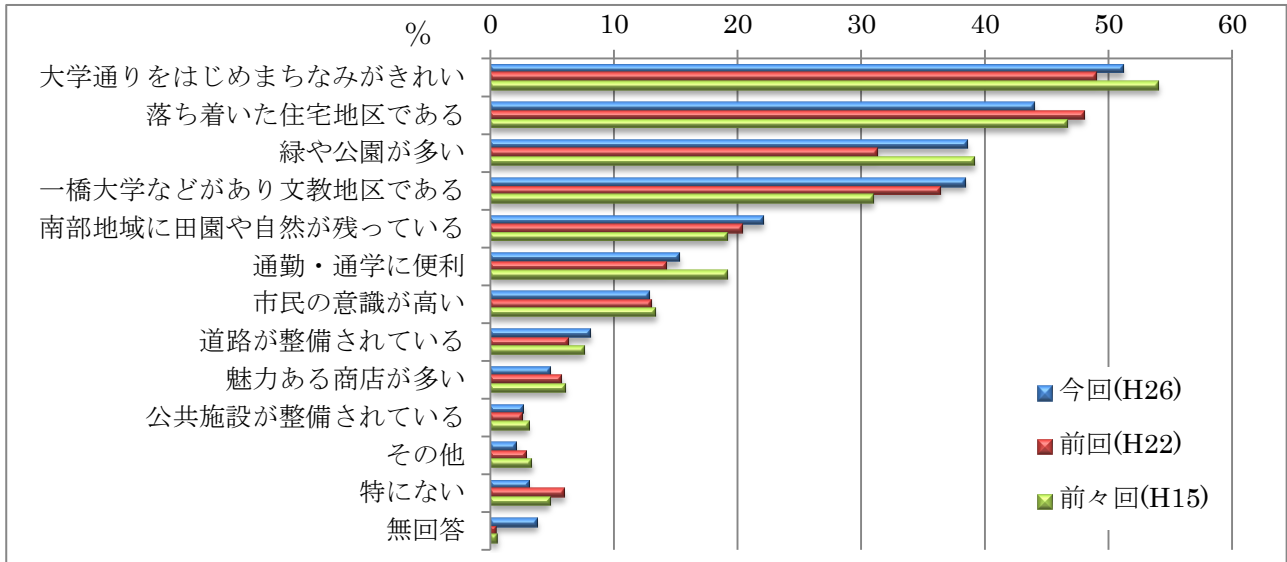


※前々回調査では、「まちなみ・景観が美しいから」「交通の便が良いから」の選択肢はなかった

(3) 国立市の魅力

国立市の魅力としては、「大学通りをはじめまちなみがきれい」(51.2%)が最も多く、以下「落ち着いた住宅地区である」(44.0%)、「緑や公園が多い」(38.6%)、「一橋大学などがあり文教地区である」(38.4%)がつづいています。

前回調査と比較すると、割合が増えているものとしては「緑や公園が多い」が7.3ポイント増とやや目立っており、自然に対するニーズが高まっているのではないのでしょうか。



第15回 国立市政世論調査より抜粋

(4) SUUMO 街の総合ランキング (関東)

①2014年版 みんなが選んだ住みたい街ランキング 関東版

| 項目 | 1位 | 2位 | 3位 | 国立市の順位 |
|-------------------------------|-----|-----|------|--------|
| 住みたい街男女別ランキング 女性総合 | 吉祥寺 | 恵比寿 | 中目黒 | 26位 |
| 住みたい街男女別ファミリーランキング ファミリー女性 | 吉祥寺 | 恵比寿 | 自由が丘 | 16位 |

②2012年版 みんなが選んだ住みたい街ランキング 関東版

| 項目 | 1位 | 2位 | 3位 | 国立市の順位 |
|-------------------|-----|-----|------|--------|
| 住みたい街総合ランキング | 吉祥寺 | 横浜 | 自由が丘 | 28位 |
| 住んでみてよかった街総合ランキング | 横浜 | 吉祥寺 | 中野 | 7位 |
| 子育て環境に良い街ランキング | 吉祥寺 | 荻窪 | 国立 | 3位 |
| 自然があふれている街ランキング | 吉祥寺 | 横浜 | 調布 | 10位 |
| 落ち着いて暮らせる街ランキング | 吉祥寺 | 国立 | 横浜 | 2位 |

不動産・住宅情報サイト『SUUMO(スーモ)』より抜粋

住民アンケートからも国立市に住みたい理由や魅力について、「まちなみ・景観が美しいから」、「自然環境に恵まれているから」、「落ち着いた住宅地区である」が上位にあり、そのイメージからSUUMO 街ランキングでも様々な項目で国立市が上位に入っているとされます。

3. 国立市の観光資源

(1) イベント

国立市のイベント

- 4月 さくらフェスティバル
- 7月 朝顔市
- 11月 秋の市民まつり・天下市・一橋祭
- 11月 国立市農業まつり(国立市農業展)
- 12月 大学通りイルミネーション

その他地域のお祭りやイベントがたくさんあります



国立市の春といえば、大学通りとさくら通りの桜並木。毎年、市内外からたくさんの方が訪れます。立川市から国立市を歩き、さくらを楽しむ「さくらウォーキング」やさくら通り沿いの公園で開催される「さくらフェスティバル」もこの時期ならではの楽しみです。

夏の訪れを告げる、「くにたち朝顔市」。江戸風鈴の音色の中、大学通りの沿道に、地元「朝顔の里」で育てられた色鮮やかな朝顔がお目見えします。

秋は、「市民まつり」×「天下市」×「一橋祭」の3つのお祭りが一つになり、大学通りはお祭りムード一色に。市内最大のイベントとあって、多くの人で賑わいます。また、くにたちの農の恵みをより楽しむことができる「くにたち農業まつり」も開催されています。そして、南部地域では、稲作の収穫時期でもあり、黄金色の稲にトンボが飛び交います。

冬は、大学通りや旭通りなどが、イルミネーションで彩られます。また、澄み切った空気の下、富士見通りから富士山を望むこともできます。

国立市はコンパクトな街の中に四季折々の様々なイベントが行われています。

(2) 街並み・イメージの良いまち

国立市の美しい街並みやイメージ

美しい街並み

- ・文教地区
- ・国立駅から三方向に伸びる街並み
- ・大学通り（桜・イチョウ・イルミネーション・一橋大学）
- ・治安が良い
- ・居心地の良い空間

「国立」というイメージの良さ

- ・個性的・隠れ家的な店が多い
- ・住みやすい街
- ・女性が活躍
- ・ドラマ等のロケが多い

学び

- ・個性的な教育機関が多い
- ・学生が多い
- ・学力向上の意識が高い
- ・留学生が多い



南部に位置する谷保は、水田に適した土壌により稲作や農業が盛んで、甲州街道を中心に民家が立ち並んでいました。その後、箱根土地株式会社によって雑木林であった北部の開発が進み、「理想の学園都市」を目指しました。計画的に街並みが整えられ、国立駅南口からは3方向に主要な道路(大学通り、富士見通り、旭通り)が展開されています。特にまちのメインストリートである大学通りは、「新東京百景」や「環境色彩10選」、「新日本街路樹百景」、「新・東京街路樹10景」にも選定されています。一橋大学構内の豊かな自然を始め、春には桜、初夏の緑、秋のイチョウなど、季節の移り変わりを肌で感じることができ、美しい街並み・景観を地域住民とともに大切にしています。そして高層住宅が少なく戸建て住宅が多いことから、空間を広く感じることもできます。

◆「国立」というイメージの良さ

国立のイメージは、大学通りなど街並みの美しさと文化的な香りがする閑静な住宅街などが代表的なものとして挙げられます。これらの要因としては、ギャラリーや美容室、和・洋菓子屋、喫茶店、レストランなどのおしゃれで個性的なお店の存在が大きいです。さらに、ドラマなどのロケが多いことも、このイメージによるところが大きいと思われます。

また、国立市には、多くの教育施設があり、学生が多い街で、留学生などの外国人も多く住んでいます。

(3) 豊かな自然

豊かな自然

多摩川・ハケ・ママ下湧水・矢川・府中用水
城山
武蔵野の風景が残り懐かしい
自然の息吹を感じながらのんびりと生活できる
水環境(川)とまちの中で人が共存
田んぼ・梨



南部地域には、矢川をはじめとする清流や多摩川が流れています。またハケとよばれる崖線の下にはママ下湧水（東京の名湧水 57 選）をはじめとする湧水や、南部地域を縦横に走る府中用水（農林水産省「全国疏水百選」）もあり、都心から近いところにもありながらも貴重な自然や昔ながらの風景が残っています。これらの貴重な水辺環境は、多様な生物の生息域や回廊として、自然観察や子供たちの学習の場、市民の憩いの場となっています。

城山やハケなどの樹木が豊かな場所は、かつての武蔵野の面影を残しており、訪れると懐かしい気持ちになれます。湧水付近ではサワガニやホトケドジョウ、矢川にはホタルやハグロトンボなど、府中用水にはオイカワやカマツカ、ザリガニが生息しています。それらを捕食するコサギやカワセミなども見られます。城山は東京都の「谷保の城山歴史環境保全地域」に指定されており、キツネノカミソリやニリンソウなどの貴重な植物のほか、オニヤンマ、カブトムシやタマムシなども生息しています。

また、このような南部地域の環境を生かして米や野菜を生産する農家がいる、市内には地元の野菜が食べられる飲食店も多数あります。

(4) 文化

国立市の文化

文化人

有名人・多様な人材・芸術家
ギャラリーが多い

文化財

一橋大学
谷保天満宮
滝乃川学園
古民家 e t c



◆文化人

文化人が移り住んできたことから多様な人材が集まりました。また文化的な活動を支える喫茶店やギャラリーが多くなり、その環境から醸し出される文化の香りから、さらに文化人が集まっているのではないかと考えられます。広く市民全体に目を向けても、市民から自発的に始まったピースくにたち市民アート展、くにたち市民オーケストラに見られるように、日常の中で芸術や音楽に親しむ方も多くいます。

【例】重要無形文化財「青磁」保持者(人間国宝)に認定された陶芸家の三浦小平二氏や、作家・エッセイストの嵐山光三郎氏など

◆文化財

「一橋大学」は、大学通り沿いにあり、伊東忠太氏設計による「兼松講堂」を代表に、ロマネスク様式を基調とする建物群が当時の面影を残しています。また、キャンパス内はもちろん、キャンパスの外でも学生達が活発に活動しています。

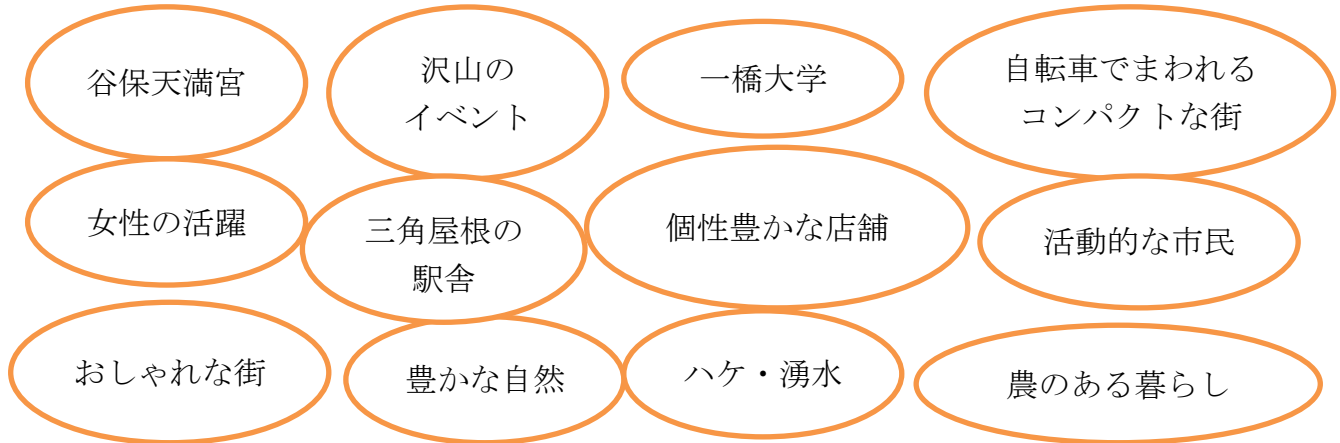
「谷保天満宮」は、平安時代の学者で政治家でもある菅原道真公を祀った社です。入学試験が間近に迫ると、合格を祈願する若い人たちが、境内はいっぱいになるようになりました。また、毎年、秋に行われる例大祭では、伝統芸能の獅子舞が奉納されます。

「滝乃川学園」は、わが国最初の知的しょうがいしゃ・しょうがい児施設で、滝乃川学園本館(石井亮一・筆子記念館)は昭和3年(1928年)に竣工した現存する国内最古のしょうがい児教育施設です。また、大切に所蔵されている「天使のピアノ」は、創立者の妻筆子が愛用した日本に現存する最古のアップライトピアノです。

「国立市古民家」(旧柳沢家住宅)は、江戸時代から使われていた農家の母屋を復元した、茅ぶき屋根の古民家で、見学だけでなく、昔ながらの年中行事や竹細工教室等も行われ、昔の素朴な生活がしのばれる楽しい体験ができます。

4. 国立市の観光における課題

現在、国立市では観光に関して、連携した活動が円滑に行われている状況には至っていません。関係機関との横断的な連携を強化し、スムーズに対応できる体制が必要です。そして、地域の持続的な発展に向けて、市民・事業者・行政が協力し、「観光まちづくり」を一体的に行うことが重要です。



国立市のいいところはたくさんあり、まちのイメージも良い。
また、他市と比較してブランド力もある。



現状は国立市には観光資源が多くあるものの、上手く活用ができていないため、観光施策を推進するしっかりした幹(軸)が必要です。その中で、

「国立市の観光とは何か？」

「国立市の観光の目標は？」

「目標を達成するためにはどのような施策を進めていくのか」

「最終的にこの観光施策を誰が進めていくのか」

ということについて観光懇談会の中で協議を重ねた結果が、国立市の目指す観光の提言となりました。

Ⅱ. 国立市の目指す観光について

1. テーマ

観光懇談会では、最終的に国立市の目指す観光については、次のようなテーマを提言することとなりました。

TOKYO SALON

出合いを楽しむ街 くにたち

このテーマの選定理由は…

平成 32 年(2020 年)の東京オリンピック・パラリンピックなどを見据え、国内だけでなく海外からの視点も踏まえ表現したテーマです。

古くは甲州街道を中心とした農業や養蚕を通じた交易の場として、そして学園都市として文化人や芸術家、多様な人々の交流の場として栄えてきた国立が、世界から見ても TOKYO の中にある(※)SALON のように人々を惹きつけ、交流の場として魅力のある持続可能な街を目指します。

また、人との出合い、食との出合い、一生モノとの出合い、芸術との出合い、居場所との出合い、初めての体験との出合い、歴史との出合い、音楽との出合い、未知なる自分との出合いなど国立という場所を活かした様々な出合いを紡ぎ、住民同士や住民と観光客との間から生まれる新しい気づきによって生涯を通して学びが得られる新型体験観光シティをめざしていくものです。

※SALON とは…

- ①客室。応接間。また、ホテル・客船などの広間・談話室。サルーン。
- ②フランスなどの上流婦人が客間で催す社交的集会。また、学者や芸術家などの社交的な集まり。
- ③(フランス - アカデミーの美術展がルーヴル宮殿内のサロン - カレで開かれたことから)美術展覧会。

広辞苑第六版より抜粋

2. 国立市の観光の将来像

国立市の魅力は様々なイベントであり、美しい街並みであり、自然であり、文化です。これらに人々が関わり、融合し、連携し合って『ひと』『モノ』という資源を活かす取組みを進め、「住んでよし・訪れてよし」の街を目指します。

その中で、『TOKYO SALON 出会いを楽しむ街 くにたち』というテーマをもとに国立市の観光施策として具体的に実施していく必要があるものを整理しました。

(1) 学び賢くなる場をつくる(来訪者とともに学び賢くなる)

教育環境に恵まれていることから国立市には、市立・都立の学校をはじめ一橋大学、東京女子体育大学、国立音楽大学付属小・中・高等学校、桐朋学園、国立学園などの教育施設や各種専門学校、カルチャースクールが数多くあります。

そして南部には、湧水や府中用水が流れ、田園風景が残っています。土や水の感触を感じることができ、都会では味わえない自然が、すぐ手の届くところに点在しています。「国立市古民家」は、見学だけでなく、昔ながらの年中行事や竹細工教室等も行われ、昔の素朴な生活がしのばれる楽しい体験ができます。さらに平成27年(2015年)春にオープンする「城山さとのいえ」では、農の里にまつわる様々なイベントや農業体験などが行われます。その中で「学び」という観点から国立市の観光につなげていきます。



①誰もが学べる環境をつくる

教養的な設問(市役所やお店に行けば答えが解かる問題など)が書かれたフラッグや看板などを設置し、親が子供を連れて遊園地に行くような感覚で、国立市を歩くだけで、賢くなれる街をつくっていきます。

まちゼミ・市民講座をより充実させていきます。アンケート等で市民の要望を調査し、様々なテーマを取り扱い、市内外の人が気軽に学べる環境をつくります。これにより「来活者」を増やしていきます。

※「来活者」とは、国立市を訪れて、活動する人。

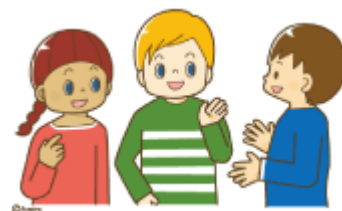


②イベント(教育・アート・音楽)を充実させる

市内の学校・専門学校と連携し、連携した学校の特色を活かした「学び」イベントを充実していきます。また、既存のイベントを支援し、更なる誘客を目指します。

③交流・体験型観光の促進をする

留学生との文化交流講座の開催により市民が新しい学びを得るとともに、留学生にもより深い日本文化を学ぶ機会をつくりだします。そのために、既に活動している団体とも連携して進めていきます。



市内在住の外国人が食育などを通して交流することで、住民相互に生活習慣の違いを学

ぶとともに異文化への理解を深め、平成 32 年(2020 年)オリンピック・パラリンピックを見据え、海外に対する国立市の強みを醸成していきます。

(2) 住民みんなでおもてなし(来訪者とともに暮らしを楽しむ)

国内はもちろん、平成 32 年(2020 年)の東京オリンピック・パラリンピックを見据え、訪日外国人に向けて、観光情報の発信や Wi-Fi の整備、宿泊施設をつくることなど、来訪者にまた訪れたいと思われるおもてなしを行います。またその中で、住民にとっても暮らしやすい街をつくっていきます。

① PR 活動の強化をする

観光サイトを充実させるとともに、海外向けに多言語表示にし、国立の魅力ある情報を発信していきます。その中で、国内外の観光客がスマートフォンなどで情報を収集できるようにするためには、Wi-Fi は最低限必要なインフラです。そのため、公共施設や商店街をまるごと Wi-Fi スポットにし、国内外の観光客を呼び込みます。



② 宿泊施設をつくる

《長期滞在》

「おためし滞在施設(移住推進施設)」をつくり、その中で、市内案内や地域活動体験を行います。

※「おためし滞在施設」とは…国立市への移住・定住を促進し、人口の増加による市の活性化を図るため、移住希望者の生活体験及び移住準備の利用に供する国立市お試し滞在施設です。

《短期滞在》

空き家となっている民家などを活用し、宿泊ロジック付きの農園体験や自然体験ができるなど、谷保・矢川地域の特性を活かした宿泊施設をつくります。

※既存の古い民家や空き家などを活用し文教地区外に近隣とは異なる様式の宿泊施設を用意し国立市に宿泊型観光を呼びこみます。

「B&B や海外観光客を受け入れる施設」をつくり、他市との差別化を図ります。

※B&B=宿泊と朝食の提供を料金に含み、比較的低価格で利用できる施設のことです。



③ 観光を担う組織人材の強化・育成をする

観光大使を任命し、国立市を PR していきます。また、来日外国人への観光スポットでの案内や情報提供など、外国語での対応が必要であるため、観光まちづくり協会の観光案内人の育成・強化を進めます。併せて、市役所職員も観光セールスマンとして国立市を PR していきます。市民に協力をお願いし、国立の魅力発信を盛り上げていきます。

スチューデントハウスをつくり、居住する学生に対して、まちづくりに参加することを条件として、地域に密着した様々な行事・活動に参加してもらい、地域活性化の一翼を担

ってもらいます。

異業種交流会を積極的に行うことで潜在的な観光資源となる人材の発見やイベントの発展につなげます。

④市役所の組織の協力体制を整える

観光事業は様々な課が横断的に携わることが多くなります。総合的な窓口として観光課を設置し、市役所の各課が横断的に協力し合い「住んでよし・訪れてよし」のまちづくりができる体制を整えます。

⑤観光インフラを整備する

市内の道路をはじめ、鉄道駅、商店会等において、多言語表記による共通した(分かりやすい)案内標識の設置・改善をし、市内在住・訪日外国人の利便性の向上を図ります。また、駅前周辺や谷保天満宮周辺など観光客が訪れた際に魅力を感じる空間づくりを検討します。(例)駅前観光案内所

出会いをテーマにしたガイドマップ(谷保に行けば自然と出会えるなど)を作成します。

既存の案内マップ等を翻訳し、多言語表示にします。



(3) もっと住みたくなる街をつくる

(来訪者とともに多様なライフスタイルをつくる)

国立市は、美しい街並み、自然、イベント、おしゃれで個性的な店など、様々な要素がコンパクトな街の中に詰まっており、その中で、個性やライフスタイルを選べるということが魅力です。

①農商工業者の連携を強化する

農地を活用し、農業体験や野外上映などを行います。また、東京都でありながら、農業が体験できるという魅力を今以上にPRしていきます。

野外ライブをしたいが、スペースが無いという声があるので、公共用地(公園など)を用いた営利事業も可能なイベントスペース(マルシェ、ライブイベント)づくりを行います。

商店街等のイベントを通して各店の相互連携を強化するとともに、商店街間の協働イベントなどの企画や農家と商店・飲食店との連携などを推進していきます。

市が誘致した企業などにもイベントへの参加・協力を呼びかけ農商工業者との連携を図ります。



②景観美化ともっと住みたくなる街づくりを促進する

既に活動している団体と連携しながら、ボランティアを募り、大学通りの植栽整備を行い景観に優れたまちを維持します。特に大学通りにある桜の老朽化が進んでいるため、さ

くら通りのように老朽化した木を一気に植え替えるのではなく、徐々に植え替えていき、景観を守っていく必要があります。

バリアフリー・ユニバーサルデザイン等を推進し、子どもからお年寄りまで「住んでよし、訪れてよし、」の街を広げます。

市民や来街者が使用できるトイレ環境の点検を進めることにより、使用する人も管理する人も気持ち良く使用できるような環境を整備します。

③行政・議会も住民と共に学び住みたい街1位をめざす

行政と住民が近い存在になることで住民ニーズを的確に把握し、国内外の事例研究や研修を重ねることで、行政サイドからもさらに魅力ある国立へとつなげます。

議会は住民のニーズを汲み取り、市の政策に反映させるとともに、住民の為となる様々な事例を調査・研究し行政と連携しあうことで国立の魅力を向上させます。



3. 観光の体系図

議論の経過を体系的にあらわすと別図のとおりです。

4. 役割分担

計画内容を具体化し、大きな成果を上げるためには、市民や事業者、行政が各々の役割を果たすとともに、連携した総合的な取り組みが必要です。

①市民

国立市に訪れた来街者が、何気なく目にする国立の街並みや、道を尋ねたときの親切で心のこもった応対は、一瞬で国立のファンを生み出す力を持っています。この力をさらに活かしていくために、市民の皆さんが実感を持って国立の街の魅力を知り、訪れた来街者に親切に「自慢」して欲しいと考えています。さらに、観光資源の保全整備や観光ガイドにボランティアとして協力する市民が増えることは、国立の街の温かさ、厚みを増す上でも大切なことです。そのためには、市民がボランティア活動等に参加できる機会を多く設けることや情報を発信することが求められます。更にこれを受けて、市民が積極的な関わりを持つことに大きな期待を寄せます。

②事業者

事業者間の連携・協力体制の充実を図り、時代のニーズにこたえるメニューづくりや施設整備を行うとともに、行政・地域と一体となった取組みを推進し、来街者の満足を高めるサービスの提供を行います。

③行政

市民、また事業者の力を結集することで、国立の街の魅力は大きく膨らむこととなります。このために国立市は、国や東京都、他市との連携を図り、市民も含めた様々な関係者が、国立市の観光振興を図る舞台作りを積極的に行えるよう、全体的な調整役を担います。

また、市役所内の関係部署との横断的な連携を強化し、スムーズに対応ができる体制を整えます。

5. まとめ

国立の観光の推進を担う市民・事業者・行政が、推進体制にあるそれぞれの役割を認識し、『TOKYO SALON 出会いを楽しむ街 くにたち』というテーマの下、知恵や情報を出し合い協力して本計画を推進していくことになります。なお、アクションプランについては、市民・事業者・行政が連携して、早期に取り組む必要があります。



6. おわりに

多くの自治体が観光の育成に力を入れている中、このたび開催された観光懇談会は国立市の観光のあり方について考える良い機会でありました。

提言書の冒頭で述べられているように「国立市の観光とは何か」について認識の共有をはかりつつ、更に「国立らしい観光のあり方」とはどのような事かについて7回にわたり真剣な討議がなされました。

意見交換を進めるうち、普段から私たちが住みやすく誇りに感じていることの源は自然や歴史・文化などがコンパクトに凝縮された環境にあることに思い当たり、それにより導き出された基本テーマが『TOKYO SALON 出会いを楽しむ街 くにたち』であります。

そこには海外からも含め広く国立市を訪れる人々をもてなし、交流を深めることよってまちの活力につなげていこうとの思いが込められております。

国立市では様々な市民や団体による活動が活発に行われており、今回の提言の中にもすでに実施がなされているものも多く含まれておりますが、さらにこれらを磨き上げ実のあるものとしていくためには、市民・事業者・行政が役割を分担しながら一体となって推進することが求められております。

とりわけ行政施策にこれらが具体的に反映されることが、国立市の価値を高めるためにも大変重要なことと受け止めております。

観光懇談会はそれぞれの立場や各地域から集まった方々で構成されており、提言書作成もすべて手作りで行われたことから、市民の思いが素直に集約されたものといえるでしょう。

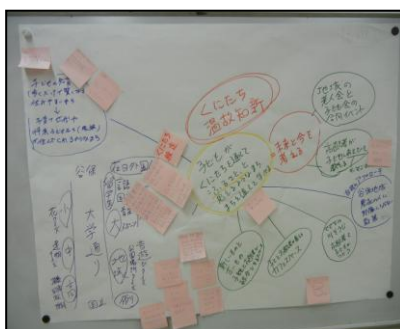
今後これが生かされることを心より期待する次第です。

平成 26 年 12 月
観光懇談会座長 喜連 元昭

参考資料

1. 検討経過

| 開催日 | 種別 | 内容 |
|-----------------------|-----------|--|
| 平成 26 年 4 月 23 日 (水) | 全体会議 | 国立市の観光と現状について |
| 平成 26 年 5 月 21 日 (水) | 班討議 | 「国立らしい観光」、「国立市らしい魅力」、「国立らしい魅力が目指すべきイメージ目標」について |
| 平成 26 年 6 月 25 日 (水) | 班討議 | 国立らしい観光を実現するために取組むこと |
| 平成 26 年 7 月 23 日 (水) | 班討議 | 国立らしい観光を実現するために取組むこと |
| 平成 26 年 8 月 20 日 (水) | 全体会議 | 継続性・持続性のある観光施策の実施に向けての方策について |
| 平成 26 年 9 月 24 日 (水) | 全体会議 | 継続性・持続性のある観光施策の実施に向けての方策について |
| 平成 26 年 10 月 29 日 (水) | 全体会議 | 国立市の観光のテーマについて 観光施策の推進主体について |
| 平成 26 年 11 月 14 日 (金) | ワーキンググループ | 提言書の作成 |
| 平成 26 年 11 月 22 日 (土) | ワーキンググループ | 提言書の作成 |



2. 観光懇談会委員名簿

| | 氏名 | 所属 | 備考 |
|----|--------|---|-------------------|
| 1 | 喜連 元昭 | 国立市観光まちづくり協会 | 座長 ワーキンググループ委員 |
| 2 | 桂 耕史 | 国立市観光まちづくり協会 | |
| 3 | 遠藤 直子 | 国立市商工会 | |
| 4 | 板坂 克二 | 国立市商工会 | |
| 5 | 永淵 慎 | 立川青年会議所 | |
| 6 | 佐伯 光豊 | 商店会（本町商店会） | |
| 7 | 吉野 真司 | 一橋大学（学生） | |
| 8 | 豊田 紗綾 | 一橋大学（学生） | ワーキンググループ委員 |
| 9 | 中島 大介 | 公募 | ワーキンググループ委員 |
| 10 | 間瀬 英一郎 | 公募 | ワーキンググループ委員 |
| 11 | 磯貝 久美子 | 公募 | |
| 12 | 渡辺 直女喜 | 公募 | |
| 13 | 渡辺 明喜 | 公募 | |
| 14 | 福住 和弥 | 公募 | |
| 15 | 五島 宏 | 公募 | |
| 16 | 清水 慎一 | 立教大学観光学部兼任講師 株式会社JTB総合研究所顧問 観光地域づくりプラットフォーム推進機構会長 | アドバイザー |

■国立市の観光に関する提言書■

平成 26 年 12 月発行
国立市生活環境部産業振興課
〒186-8501
東京都国立市富士見台 2 - 47 - 1
電話番号 042 - 576 - 2111